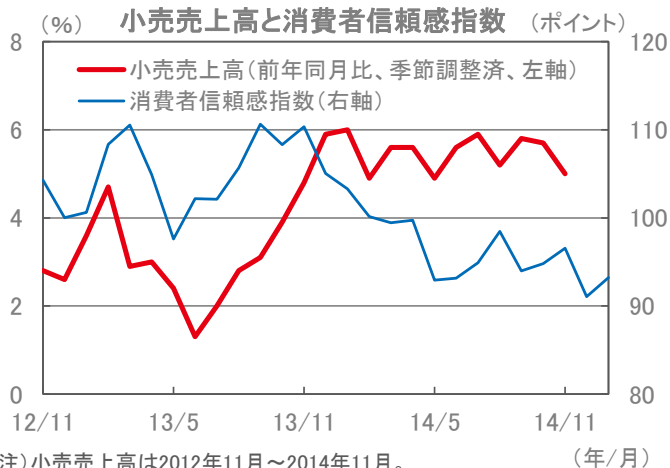


今日のトピック 最近の指標から見る豪州経済(2015年1月) 低金利で内需が底堅く推移

ポイント1 消費は底堅く推移

輸出に底入れ感

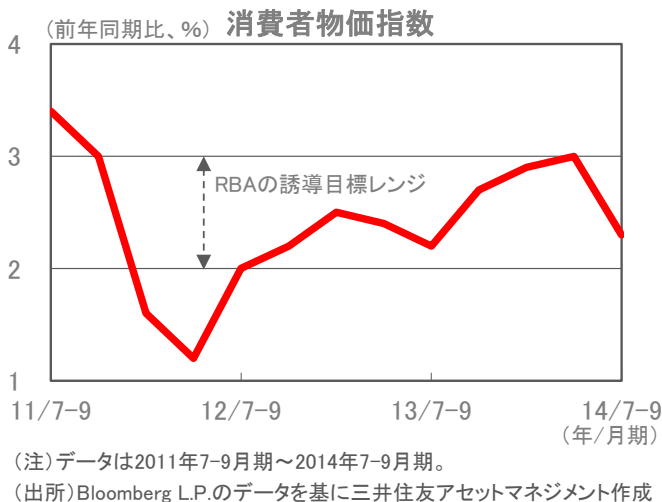
- 小売売上高は、昨年来、前年同月比+5%前後で推移しています。消費は、雇用の改善や低金利政策を背景に底堅い状況です。
- 企業景況感の改善などから雇用者数が増加基調にあり、雇用は緩やかに改善しています。住宅建設許可件数が増加傾向にあるなど、住宅市場は拡大基調にあります。
- 輸出は、資源価格が下落しているものの中国向け鉄鉱石などが拡大していることから、底入れ感が出ています。



ポイント2 物価は低下基調で推移

市場では利下げ観測が強まる

- 賃金の上昇率が年+2.5%前後で安定して推移する一方、原油・資源価格が下落しており、物価上昇率は低下基調にあります。
- インフレ圧力が弱まっているため、市場では豪州準備銀行(RBA)による利下げ観測が強まっています。



今後の展開 低金利政策による内需の拡大により景気は底堅く推移

- 物価上昇率の低下から低金利政策は当面維持される見込みです。低金利による内需の拡大にけん引され景気は底堅く推移すると思われます。
- 中国の景気刺激策や主要国での金融緩和策の効果が強まる場合は、輸出が拡大する期待が高まります。
- RBAが利下げを実施した場合でも、雇用や住宅市場の緩やかな拡大を背景に、主要国と比べ高い金利水準は維持されると見られます。
- 原油・資源価格のさらなる下落は限定的と見られることや、底堅い内需が当面継続することに支えられ、豪ドルは底堅い推移が見込まれます。

ここも チェック!

2015年01月21日 IMFの世界経済見通し改定(2015年1月)
2014年12月17日 2015年のオーストラリア経済の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。